

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	16-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Is breast cancer risk associated with alcohol intake before first full-term pregnancy? 乳がんリスクは、初めての妊娠前の飲酒と関連するか？		
<b>執筆者</b>		
Jayasekara H, MacInnis RJ, Hodge AM, Room R, Milne RL, Hopper JL, Giles GG, English DR.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Causes Control. 2016 Sep;27(9):1167-74. doi: 10.1007/s10552-016-0789-3.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、乳がん、初回満期妊娠、前向きコホート研究		27437703
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 初潮と初産までの期間において、乳房組織はエタノールを含む発癌物質と特に感受性があると考えられる。初めての妊娠より前の期間の飲酒は、初産後の飲酒よりも乳がんのリスクとより密接に関連しているという報告もある。前向きコホート研究から生涯アルコール摂取量のデータを使用して、この関連を調べた。		
<b>方法：</b> メルボルンの前向きコホート研究の対象者のうち、初産が 20 歳以上で、がんの既往がなく、登録時に 40～69 歳であった 13,630 人の女性について、15 歳から 19 歳までと、20 歳から現在の年齢までの日常的なアルコール摂取量と、酒類別の摂取頻度と量をリコール調査した。ハザード比(HR)およびその 95%信頼区間(CI)を推定するために、Cox 回帰分析を行った。		
<b>結果：</b> 乳房の浸潤性腺癌は計 651 例、平均追跡期間は 16.1 年間であった。アルコール摂取量は全体では少なかったが、40g/日以上飲酒者もわずかにいた。初めての妊娠前の摂取量(平均摂取量 2.5g/日、非飲酒者 58.8%)は、その後の摂取量(平均摂取量 6.0g/日、非飲酒者 33.6%)よりも著しく低かった。非飲酒者と比べて、初めての妊娠より前に飲酒していた者は乳がんリスクの上昇と関連していたが(HR 1.35, 95%CI 1.10-1.66)、初産後に飲酒していた者では乳がんリスクに関連していなかった(HR 0.89, 95%CI 0.72 -1.09)。		
<b>結論：</b> 初めての妊娠より前の飲酒を制限すると、女性の乳がんリスクが低下する可能性がある。		